

田村市指定有形文化財

とい の くち く よう とう
樋 ノ 口 供 養 塔



田村市船引町門鹿字樋ノ口地内に所在する樋ノ口供養塔は、正応5（1292）年12月の紀年名をもち、紀年名が確認できる市内の石造物の中では最も古いもので、高さ130cm、幅111cmの大きさです。

娘を亡くした親が建立したもので、種子のキリクは阿弥陀如来を示しています。年月を略しているのは当時の傾向であろうと推測されます。

石材に種子の梵字と造立した趣旨とを刻んだ供養塔は、鎌倉時代から造られるようになり、阿弥陀信仰の大きな広まりがその背景にあったといわれています。



正応五十二年
壬辰
衆生也敬白
右為女子法界